

研 究 紀 要

美 術 工 芸 部 会

実践発表 1

「工業高校の美術 I 授業実践の紹介」

青森県立弘前工業高等学校 坂 本 憲 史 1

実践発表 2

「殻を破るものづくり」

青森県立黒石高等学校 城 戸 英 郎 3

報告「令和 6 年度高等学校各教科等担当指導主事連絡協議会より」

青森県立黒石高等学校 佐 藤 広 野 6

講演「現代社会における石膏デッサン教育の課題」

多摩美術大学 非常勤講師 荒 木 慎 也 8

部会の動き 1 0

研究テーマ 1 1

紀要編集委員 松 尾 あ に す（青森県立八戸北高等学校）

工業高校の美術Ⅰ 授業実践の紹介

発表者 青森県立弘前工業高等学校 坂 本 憲 史

1 生徒を取り巻く環境

スマートフォンの出現は、生徒の生活様式と心の状態に大きな影響を与えている。生徒は、日常的にスマートフォン内の複数のアプリを切り替えながら情報にアクセスする。その画面には、生徒が求める情報だけが表示されるわけではない。アルゴリズムが、その生徒に適した類似の情報とともに様々な広告を表示させ、彼らにタップを促す。生徒は、いつの間にかこのアルゴリズムに主導権を奪われ、長時間にわたり受動的に画面を眺めることになる。このようなテクノロジーは、生徒から孤独に自分自身と対話する時間や、主体的な視点を持つ機会を奪っている。

2 授業における課題

生徒は、様々なメディアを通して、他人による多種多様な創作物を楽しんでいるが、いわゆる美術館で目にするような美術には興味がない。また生徒は、先述のようなデジタル環境により、日常的に視覚的な満足を得ているので、主体的に何かを表現することを必要としていない。その結果、生徒は、主体的にテーマを設定して意欲的に表現活動に取り組むことを苦手とする。例えば、自画像の授業を実施したとしても、生徒にとって「自分」をモチーフとして表現したい何かを主体的に見出すということは、漠然とした課題設定であり、そこに意欲を持って取り組むことは難しい。加えて、情報のザッピングに慣れた彼らの意識は、集中力を持続することに不向きである。

3 単元名「タイポグラフィー」の授業実践

(1) 工夫点

題材を「ラーメン屋の看板」とし、見慣れた身近なものとした。また、彩色道具の使い始めであることを考慮し、混色や文字数に制限を設け、やるべきことの目的を絞った。さらに、作品制作に目的を与えるため、架空のラーメン店店主からの「依頼書」(図1)を作成し、生徒に提示した。教師による教材提示は電子黒板を、生徒によるワークシート記入は、iPad と GoogleDocument を使用し、効率化を図った。

4 単元の流れ

(1) 導入 (1時間目 10分間)

- ・教科書(『高校美術』日本文教出版)で「タイポグラフィー」の概要を確認
- ・生徒は、本単元の目標や評価基準を確認

(2) 鑑賞 (1時間目 20分間)

- ・教科書掲載作品や実在の店舗看板を使って対話型鑑賞を実施
- ・生徒は、GoogleDocument のワークシート(図2)に感想を入力

(3) タイポグラフィーと店舗看板についての説明 (1時間目 20分間)

- ・教師がスライドを提示しながら、鑑賞作品の詳細、タイポグラフィーの過去と現在について説明
- ・生徒は、鑑賞活動や教師の説明から学んだことを GoogleDocument に入力

(4) 構想 (2時間目 40分間)

- ・教師が文字のレイアウトと配色の留意点について説明
- ・生徒は、GoogleDocument の描画機能を使って構想図を作成

(5) 下描き (3時間目～5時間目)

- ・教師が文字のデザインの留意点を説明
- ・生徒は、文字の形をデザインしながら下描き

(6) 彩色 (6時間目～8時間目)

- ・教師が道具の扱いと彩色の留意点について説明
- ・生徒は、彩色の練習をしてから実際の作品に彩色

5 授業実践後の所感

デザインは、絵画や彫刻など自己表現を目指す領域に比べて指導しやすい。デザイン作品には使用目的があるため、生徒は、自分の作品が社会の中でどのように扱われるのかを想像しながら制作できるようだ。その結果、生徒は、目的意識を持って意欲的に授業に参加できているように感じた。近代以降、絵画や彫刻は高尚な自己表現であるとの認識が根強いが、絵画や彫刻においても、デザインのように、使用目的を意識させた制作プロセスを適用してもよいと思う。例えば、絵画であれば、「入院生活で外出できない方のために、病室にいながら弘前公園の風景を楽しめるよう弘前公園をモチーフとした風景画を制作しなさい」という課題設定もありうるだろう。

6 評価について

ワークシートは、GoogleClassroom で回収して評価した。事前にワークシートにループバックを設定することにより、クラス間、生徒間で評価基準がバラつかないようにすることができた。このようなデジタル評価物は、生徒の手元にも教師の手元にも残るため、いつでも振り返って確認することができる。

【図1】

タイポグラフィー（店舗看板のデザイン）

【依頼書】

あなたは、これからラーメン店を出店するというAさんから店舗の名前と看板のデザインを依頼されました。以下Aさんからのメッセージをよく読んでデザインの構想を練りなさい。



参考イメージ

【Aさんからのメッセージ】

「私はこだわりのラーメンを作っています。そして、自分のラーメンに誇りを持っています。そのラーメンをたくさん地域の方々に味わってほしいと思っています。看板をデザインして頂くにあたり、以下の条件を踏まえたうえで、私のラーメンへのこだわりと、お客様を大事にする心を表現してほしいと思います。」

【デザインの条件】

- ① Aさんのラーメンへのこだわりと、お客様を大事にする心を表現すること
- ② 店名は漢字1文字にすること
- ③ 看板には店名とともに「ラーメン（らーめん らあめん も可）」を加えること
- ④ 看板は文字のみで構成するものとするが、補助的に線や図形を使用することは認める。
- ⑤ 文字は、既存の書体（明朝体やゴシック体等）ではなく、独自の書体にすること
- ⑥ 使用する色は4色（白も1色とする）以内とすること
- ⑦ 使用する色は絵の具セットにある色から選ぶこと（混色しない）
- ⑧ サイズと向きはA3の横向きとすること

以上

【図2】

タイポグラフィー・ワークシート(GoogleDocument)

タイポグラフィワークシート

科 番 氏名

I 鑑賞

①鑑賞1



②この作品の全体の印象について書きなさい。

戦争反対
利権

③④のような印象を抱いた理由（色や形、構図など）を書きなさい。

NO MORE WAR! と赤く太い文字で大きく書かれていて（一番目立っている）、他の文字はほぼ均一に小さく書かれているから
隙間がない
難しい英語ではなく、簡単な短い文

⑤この作品のテーマは「反戦」です。このテーマを表現するにあたって、作者が工夫したと思われることを書きなさい。

NO MORE WAR!（伝えたいこと）を赤く大きな文字で書いて、興味を引く

【制作の様子】



【完成作品】



「殻を破るものづくり」

報告者 青森県立黒石高等学校 城 戸 英 郎

1 はじめに

特別支援学校から全日制の課程の黒石高等学校に赴任して1年目。専門教科である美術Ⅰを教えることとなった。はじめに美術室と美術準備室に入った時いつもの課題が頭をよぎる。来たばかりの者にとっては何がどこにどれだけあるのか、まずは所有財産の確認である。支援学校では見かけなかった石膏像の白さに静かな心の躍動を覚えつつ、美術カタログの巻頭特集に出ていた「美術室の環境整備の実践」に倣い、夏休みを使って断捨離しようと決心した。

2 「見える化」と「もの入れの前には物を置かない」の徹底

作品や材料が増えてくると、ついつい段ボールのまま物入れの前に置いてしまうことはないだろうか。カンバスに描き始めた制作途中の油絵置き場所がなかなか無い。一時的に棚の前に置いてしまおうか……。いや、それだと棚の中のものが出せなくなってしまう。この悪循環である。まずはそこから「見える化」を始めよう。

片付け前



写真1：春の美術室

収納棚の前に箱や絵が置いてある

箱は高い所から降ろしてみないと何が入っているのかわからない

3 「道具」と「素材」で置き場を分ける（※次ページ「図1」参照）

生徒が自分で探し使った後も元に戻せるように、小さなトレイにピクトグラムのアイコンを付け、携帯電話のアプリのように一目でわかりやすく表示する。



写真2

ピクトグラムには生徒の描いた作品を採用

収納の扉は全て外し、準備室にしよう

スケルトンで中が見える

※「見える化」により視覚情報が増えることで落ち着きが無くなる生徒が出てくる場合がある。黒板のある正面側には、なるべくゴチャゴチャとものを置かないようにスッキリさせ、視界を整えよう。授業の説明時に黒板（や電子黒板）を注目して聞いているかを確認しよう。完成した作品については学期末毎に確実に返却し、自分の責任で持ち帰るか資源に返してもらおう。いつの誰のものかもわからない、堆積した傑作品達にはいつも心が痛む。

4 「ごみ箱」から「資源箱」へ

1年生のある生徒が「うちにはごみ箱がありません。」と言った言葉に衝撃を受けた。生ごみも畑で使うということだ。まだプラスチックが無かった江戸時代は、循環型社会が成立していたということを考えると、「ごみ」という言葉自体がなんだか差別用語のように思えてきて、その日を境に美術室のごゴミ箱からは「ごみ」という言葉を切り取った。「ごみ」が「資源」に変わり、針金なども素材に分け、分別資源としての再利用に挑戦していく。



写真3：資源箱（切り取られた「ごみ」の文字）

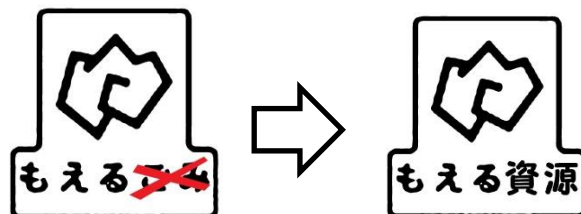


写真4：新しくなったピクトグラム ↑

5 雑巾は手もみ洗い

私達は東日本大震災の時に電気が止まり、家電が使えないという経験をした。100円のプラスチック洗濯板と洗剤を使い、雑巾の手もみ洗いを実践している。



写真4：雑巾は洗濯板で

6 結果

環境美化を始めて2年となるが、美術部員が40名と黒石高校では部員登録数の一番多い部となった。他の部活動と兼部している生徒は6割おり、自分から何かしてみたいと行動を起こす生徒の興味が深まった結果だと感じている。

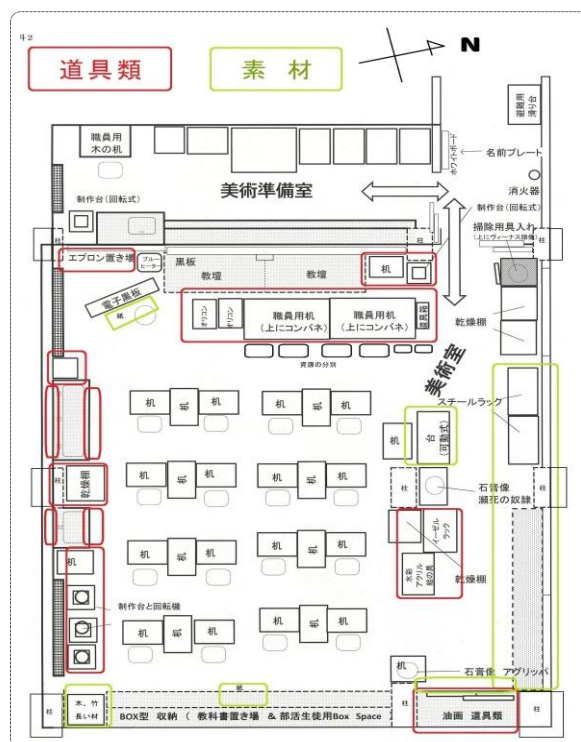


図1：美術室レイアウト

7 まとめ（美術の役割）

- ・「答えは一つではなく、個性の数だけ答えがある教科」
- ・「障害の有無に関係なく、半分ずつでどちらも大切」という考え方

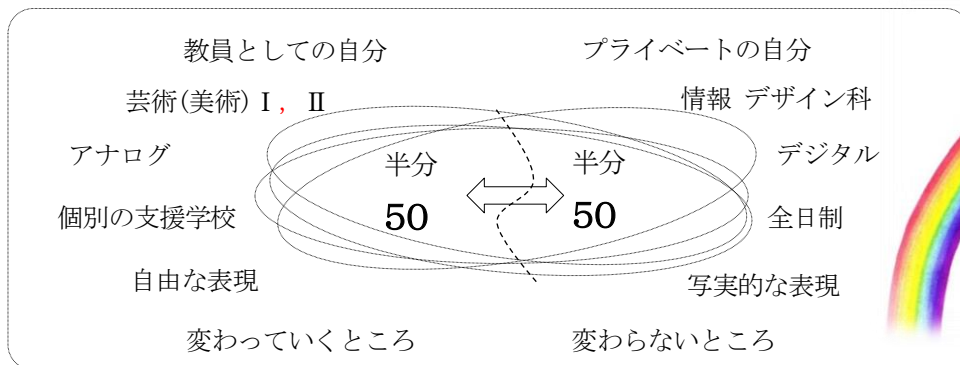
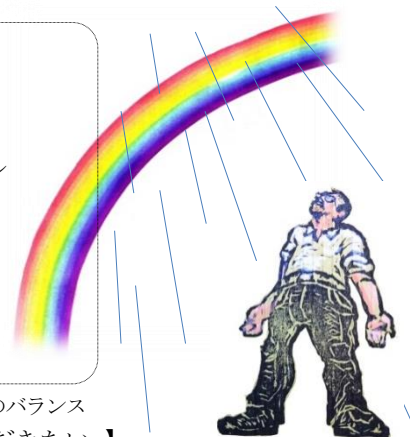


図2：考え方のバランス

【若い美術の先生方には支援学校で2年間の「交流」を、是非経験していただきたい。】



報告者：青森県立黒石高等学校
教諭 佐藤 広野

1 行政説明（文部科学省初等中等教育局教科調査官 平田 朝一氏より）

1) 学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり（資料P 2～10）

（1）芸術科（美術・工芸）改定の趣旨と要点、方向性（資料P 2～5）

①感性や想像力等を豊かに働かせて思考・判断し、表現と鑑賞の資質・能力を相互に関連させて育むこと。

…表現の参考のための鑑賞に留まっていないか、新たな気づきを得られる効果的な鑑賞活動かを考える。

②生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての実感的な理解を深め、生活や社会と豊かに関わる態度の育成すること。

…高校卒業後、子どもたちが社会で豊かに色々な力を活用しながら生活していくためには美術・工芸の学びが必要。よって教師は美術の働き、美術文化に関する学びへの対応が求められる。

③共通事項（表現と鑑賞の学習に共通に必要な資質能力）

…表現・鑑賞の学習の場面でどのように活用されているか。

⇒美術は何を学ぶ科目なのかということを明示。

・造形的な見方や考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を育成。

・育成を目指す能力を明確にして3つの柱で整理し、これらを相互に関連させることを目標としている。

（2）内容の改善（資料P 7～10）

①(イ)鑑賞領域の改善（2つの領域にまとめる）

ア「美術作品などに関する鑑賞領域」…(ア)絵画・彫刻、(イ)デザイン、(ウ)映像メディア表現

イ「美術の働きや美術文化に関する鑑賞領域」…(ア)美術の働きに関する鑑賞、(イ)美術文化に関する鑑賞

②(ウ)〔共通事項〕の新設

造形的な視点を豊かにするために必要な知識を新設。

③(エ)言語活動の充実

アイデアスケッチ、言葉、作品に対する相互批評などを取り入れるようにする。

④(オ)美術Ⅲの内容の充実

従前は配慮事項においてA表現は(1)絵画・彫刻、(2)デザイン、(3)映像メディア表現及びB鑑賞のいずれか1つ以上を選択して扱うことができる⇒A、B両領域の取り扱い、関連付けが重視される。

2) 鑑賞の学習について（資料P 11～22 ※P 19～22 は工芸に関するページ）

（1）「美術作品などに見方や感じ方を深める鑑賞」

（2）「生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を深める鑑賞」

【鑑賞を行っていくうえで大切にしたいこと】

・生徒の自由な見方や考え方に基づく多様な鑑賞活動（作者の内面、社会・時代の分析、自分との比較等を行う場面の設定したうえで）をとおして価値意識を持って見方や感じ方を深めさせていくこと

・地域の美術館の活用⇒作品の借用、オンライン鑑賞

・普遍的な美について思考・判断できるところまで高める

3) 「A 表現」及び「B 鑑賞」相互の関連を図る（資料P 23～29 ※P 19～22 は工芸に関するページ）

共通事項との関連を図りながら、表現と鑑賞の双方に働く中心となる考えを軸に資質・能力を高める

4) 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善（資料P 30～32）

年間計画の十分な検討、自他の作品・考え・感じ方を尊重し合う鑑賞の授業、知的財産権の理解。

2 研究協議（各都道府県代表者 テーマは「鑑賞の学習に関する成果と課題」）

本県は北海道、愛知県、名古屋市、川崎市、神戸市の3県3市のグループで協議。成果として表現と鑑賞の関連付けに対する認識の深化、ICT活用による美術館等との連携や対話型鑑賞の機会の増加が挙げられた。一方課題として、生徒の見方・感じ方の深め方、生徒の語彙力の弱さ、教諭数減に伴う周知の難しさが挙げられた。これらの課題改善に向け、学習の振り返りの場面設定、指導主事による鑑賞学習の重点の伝達等の方策が述べられた。

「現代社会における石膏デッサン教育の課題」

荒木慎也(多摩美術大学 非常勤講師)

●はじめに

本講演は多摩美術大学で非常勤講師を務める荒木慎也氏をお招きし行われた。今回は、なぜ石膏像や石膏デッサンが差別の助長や多様性の否定に繋がっているのか、また現在の社会の中で、我々はそれらをどのように見なければならぬのかという視点から、国際的な研究成果もふまえて紹介いただいた。

1. 石膏デッサンの倫理的問題

石膏デッサンに関しては様々な議論がなされ、一般的な教育論では「立体の把握」「対象の観察」「作品を完成させる心構え」などを育成するための基礎として用いられてきた。一方「自由な発想や創造性を損なう」「技術偏重の指導を助長する」など批判の声も上がっている。これら従来の批判は、あくまで美術教育内部から起こったものである。しかし、これらの批判に加えて、現代では美術教育の外部からの批判も存在する。現代社会での主な課題として「多様性の重視」や「差別の撤廃」が唱えられるようになった昨今、石膏デッサン教育が多様性の否定や、差別の助長に繋がるのではないかという倫理上の課題が浮上した。

2. 古代彫刻とは何か

現在世界中に存在する石膏像の原型の多くは古代ギリシャ、ローマ時代、14世紀イタリアのルネサンス期の彫刻である。古代ギリシャ時代は厳格な美の基準が定義された「美即善」すなわち、ルッキズムを煮詰めたような時代であり、彫刻は権力者が自らを理想化するために利用された。後世ではヨーロッパを中心とする王族や宗教権力者のコレクションの対象となった。そうして徐々に西洋社会の価値観を凝縮し、後に非西洋世界へと文化を広める文化装置として機能することになる。

○古代ギリシャはなぜ古典なのか

古代ギリシャ時代は芸術だけでなく、政治や学問など様々なものが急速に発展した。西洋社会にとっては古代ギリシャこそが手本とすべき時代であり自分達の文化の出発点だった。しかし古代ギリシャの人間はいわゆる白人ではなかったというのが現代の通説であるうえ、美術品のテーマには同性愛や少年愛などが多く取り入れられており、これらの文化が果たして現代の西洋文化において理想と呼べる文化であるかは疑問である。

○古代彫刻の政治利用

古代ギリシャ彫刻は人体を美しく理想化する技術に長け、この技術は後の権力者や国家によって芸術プロパガンダとして利用された。ローマ皇帝は強大な軍事国家の支配者として権威を示すため、強く美しく若い自分を演出し、後世の権力者たちは古代美術をコレクションすることで自らの権力を示した。ナポレオンやヒトラーが良い例である。現代のルーブル美術館はもともとナポレオンのコレクションを収蔵するために作られたものであり、イタリア遠征の際にバチカンから手に入れた古代彫刻が数多く収蔵されていた。ヒトラーは映像や芸術に古代彫刻の要素を取り入れ、ドイツ民族と古代ギリシャ文明を結びつけた。特に円盤投げ（ディスコボロス）の像に固執し、理想的なドイツ人の姿を投影していた。

○文化のねじ曲げ

古代彫刻はルネサンス期までの経年劣化により本来の色彩が薄れ、当時の人々は古代彫刻が元々白い物であるという間違った解釈をした。当時の美術科であるヴィンケルマンは「ギリシャ美術模倣論」で白こそが最も純粋な色であり、色彩は野蛮な文化、白の彫刻こそが最も崇高とし、古代彫刻の気品や静謐さを説いた。白人文化の基礎となった古代彫刻は、古代ギリシャ文化と西洋文化を接続するために白でなくてはならないものへと変化し、キリスト教に反するテーマからは目を背けた。また、大英博物館のパルテノンフリーズをはじめ、わずかに残った色彩の痕跡も意図的に削り取られていった。

1922年にフランスで発掘されたミロのヴィーナスは、ナポレオン失脚後多くの古代彫刻がバチカンに返却されたフランスにとって文化の救世主であり、古代彫刻の傑作でなければならなかった。しかし実際はミロのヴィーナスは古代期から外れたヘレニズム期の作品であり、厳密には古代彫刻とは呼べないものである。

○文化装置となった石膏像

フランスのマルセイユではコロニアル（植民地）博覧会が開催され、アメリカのセントルイス万博では、先

住民の文化ではなく大量のヨーロッパ古代彫刻の石膏像が展示された。また、石膏像は西洋だけでなく植民地の美術アカデミーでもデッサンモチーフとしても使われた。人体の欠陥を正しい姿に修正するべきという価値観の元、植民地の文化や歴史を野蛮な物として否定し、ヨーロッパの正しい美術を普及させるために機能したのである。日本は植民地ではなかったが、西洋文化を取り入れることに積極的であり、自国の文化を否定する活動に積極的だった。そして正しい姿を描くための美術教育はアカデミーを通して普及していった。

3. 石膏デッサンの再神格化

第2次世界大戦後、日本の社会は「軍国主義」から「平和と文化を愛する平和国家」へと急速に変化した。石膏像が持っていた西洋文化を取り入れるという目的は忘れ去られ、これまでの美術教育に対する反省や議論はなされないままだった。そして美術教育の方針が定まらないままベビーブームを迎え、20年ほどで芸大・美大への受験者が一気に増加し、始まった受験産業とともに日本独自のデッサン教育が始まり、石膏デッサンを通じた自己表現、自己実現を見いだすという精神論的な教育が予備校を中心に広まっていった。これらの精神論は加熱する受験戦争の中で卓越したデッサン力に裏打ちされ魔術的な力を持つようになり、日本では石膏デッサンが持つ歴史的背景や本来の目的が一切問われず、行う側の心の問題ばかりが論じられる時代が長く続いた。

4. 悲惨な運命をたどった石膏像

アメリカをはじめとする西洋社会では美術館や美術アカデミーの役割が変化していた。19世紀以降の美術館の役割は植民地から新たな文化を得たことや、印象派の誕生と共に「本物」の展示へと移り変わり、石膏像は複製品や美術アカデミーの遺産とされた。石膏像は劇的な価値観の変化とともに急速に人気を失い、ルーブル美術館や歴史ある美術アカデミーなどに収蔵されていた物までも大量に廃棄処分され、粗雑な扱いを受けるようになった。日本でも21世紀に入ってから同じような状況が発生している。予備校や大学で積極的に集められていた石膏像は、入試形態の変化や生徒の減少と共に不要とされ、置き場がなくなり廃棄されるようになった。

5. 生まれ変わる石膏像

現在では石膏像が抱える歴史的な問題を批判的に受け止め、学術的な研究対象として再評価する研究がヨーロッパを中心に広まっている。オックスフォード大学のミュージアムでは新たなギャラリーが作られ、石膏像を歴史的資料として展示している。また芸術科や学芸員の間では、石膏像を理想的な姿として見るのではなく歴史をふまえて捉えなおし、自らの造形制作に取り込んだ芸術活動が始まっている。

6. まとめ

古代彫刻の石膏像は、ルッキズムや帝国主義、人種差別や植民地主義とは切り離して考えることは出来ず、倫理的、道徳的な面から考えても単に美しいという理由でデッサンの教材には出来ない。これまでは石膏像が抱える歴史的・政治的文脈が考慮されてこなかったが、昨今はそれらの歴史をふまえて、石膏像を再解釈しようという動きが始まっている。我々も美術教育に携わる側として、改めて石膏像を批判的に見直す視点が必要である。

部 会 の 動 き

美術工芸部会

1. 5月14日(火) 総 会

○会場：青森西高等学校（青森市）

- (1) 令和5年度 庶務報告
- (2) 監査報告
- (3) 令和5年度 決算報告
- (4) 役員改選
- (5) 令和6年度 事業計画（案）審議
- (6) 令和6年度 予算（案）審議

1. 5月23日(木) 事務局長会議

○会場：青森県総合社会教育センター（青森市）

出席：佐藤（事務局・黒石）

3. 8月20日(火)～21日(水) 総会・研究大会

○会場：県立弘前工業高等学校（弘前市）

・総会 令和7年度研究大会計画書（案）審議

・研究大会 研究テーマ『ポストゆとり世代の美術教育』

実践発表1 「工業高校の美術Ⅰ 授業実践の紹介」

青森県立弘前工業高等学校 教諭 坂 本 憲 史

実践発表2 「殻を破るものづくり」

青森県立黒石高等学校 教諭 城 戸 英 郎

報 告 「令和6年度高等学校各教科等担当指導主事連絡協議会より」

青森県立黒石高等学校 教諭 佐 藤 広 野

実践ディスカッション

津軽地区会員

講 演 「現代社会における石膏デッサン教育の課題」

多摩美術大学 非常勤講師 荒 木 慎 也 氏

・参加者 部会員17名

4. 8月～9月 研究紀要原稿の校正と編集

担当：松尾（八戸北）

5. 8月20日(火) 第61回全国高等学校美術、工芸教育研究大会〈2024本部大会〉

○大会テーマ ※都道府県代表者会議のみの実施のため、今年度はテーマ無し

○北海道大会の予定であったが全国高美工研からの北海道脱会を受け、急遽本部（東京）大会として実施

6. 1月 「授業実践・教育課程」についての状況実態調査

担当：佐藤（事務局・黒石）

7. 3月 会計監査

担当：城戸（黒石）

研 究 テ ー マ

紀 要 (集)	年 度	研 究 テ ー マ	会 場	会員数 (一・二 希望計)	大 会 参加数	大会発 表者数
50	17	○豊かな情操を育むために	八 戸 北 高 校 ガラス工房スターブリッジ	34	21	1
51	18	○豊かな情操を育むために	青 森 戸 山 高 校 ゆ ～ さ 浅 虫	31	23	2
52	19	○豊かな情操を育てるために	弘前市伝統産業会館 弘 前 市 観 光 館	30	22	0
53	20	○豊かな情操を育てるために	十和田市現代美術館	31	21	1
54	21	○豊かな情操を育むために	青 森 戸 山 高 校	30	21	1
55	22	○豊かな情操を育むために	黒 石 商 業 高 校	32	20	1
56	23	○豊かな情操を育むために	八戸ポータルミュージアムはっち	29	18	2
57	24	○豊かな情操を育むために	青 森 戸 山 高 校 国際芸術センター青森	28	22	2
58	25	○豊かな情操を育むために	弘 前 実 業 高 校	30	22	2
59	26	○豊かな情操を育むために	八 戸 高 校	31	18	1
60	27	○豊かな情操を育むために	弘 前 工 業 高 校	27	16	3
61	28	○豊かな情操を育むために	八 戸 高 校	27	15	2
62	29	○豊かな情操を育むために	青森県総合社会教育 センター	29	20	2
63	30	○美術，工芸の教科性を確立するために ～感覚を開く授業とは～	弘前市立観光館	28	17	3
64	R 1	○美術教育と美術館教育について	八 戸 高 校	28	17	3
-	2	(新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)		30		
65	3	○造形的な見方・考え方を深める授業とは	弘前市立観光館	29	17	2
66	4	○人とまちを育む、みんなの美術館 ～美術教育に今できること～	八 戸 市 美 術 館	29	16	2
67	5	○未来の美術教育の可能性について ～ I C T を活用した授業実践～	青 森 西 高 校	27	19	2
68	6	○ポストゆとり世代の美術教育	弘 前 工 業 高 校	28	17	2

令和6年度 美術工芸部会